

令和3年10月

第504回 三水会便り 新型コロナ激減し、緊急事態解除 「西上州」実現へ

新型コロナウイルスの新規感染者が激減した。東京都で300人を切った。9月末までだった緊急事態宣言は、第6波に備えいくつかの予防措置を残しながらも解除された。11/4~5に予定している現地集会「西上州」は、なんとか実施できそうだ。会として実施するのは、7月の「町田・小山田緑地」以来4か月ぶりだ。ワクチン接種の効果がでてきたという。寒くなって、今度はインフルエンザとダブルパンチだという声がある。マスク・手洗い・うがいを怠りなく続けよう。(高橋重)

現地集会案内

■11/4~5 西上州 カイト山・オドケ山・御荷鉢

カイトやオドケ—って、実に妙な山名です。カイトは昨年途中で断念した。オドケはスーパー林道沿いにある。2009年に登りました。メンバーが替わり再度挑戦します。◇日程/11月4日(木)~5日(金)◇集合/JR 高崎線本庄駅北口。改札を出て右側 10:00, 出迎えバス出発 10:10◇参考/JR 快速アーバン上野 8:32 発→9:53本庄着◇宿泊/上野村不二野屋 0274-59-2379◇費用13,000円位(車代込み)◇コース 11/4 カイト山(白板山)1342.8m 往復2時間くらい、天保11年の石仏の並ぶ山登山口から登ります。頂上は大展望の岩峰です◇タイム/石仏の並ぶカイト山入山口(15M)→林道矢弓沢線点より6.6km地点で引き返す(6M)→南尾根西側取付き(21M)→カイト山*標高は地形図には1342.9mとの表示でしたが、現地山の山頂標識には1342.8mと表示。山頂は横長の岩稜帯ですが、360°の展望に恵まれ浅間山、妙義山、両神山などを望めます。その後上野村の酒屋により飲料水等、購入。☆ビール以外は酒屋で買います(持ち込み大歓迎)。2日目の昼食¥525料金に含む。前日注文します◇コース 11/5 スーパー林道から登る、オドケ山45分~西御荷鉢山1時間。乳房を思わせる東西御荷鉢山とおむすび形のオドケ山。山麓からの登山道が廃れアクセスは車利用です。西御荷鉢山からは天気が良ければ富士山も望めます◇解散本庄駅。係り/橋本雅子03・5703・0326, 080・4189・3927(携帯) Email kohpayam@hotmail.com (橋本)



カイト山登山口

現地集会報告

■9/4~5 「あんころ餅」を個人山行で実施し11人参加

上高地へ行って参りました。いつも釜トンネルを抜けると、風景ががらりと変わり、それにつれて気持ちが高揚するのです。そんな期待が、土曜日は終日降ったりやんだりでさっぱり。やむをえません。人影のまばらな河童橋を渡り山研にたどり着きました。コロナ禍で三水会の例会としては中止。個人参山行に切り替えたのですが、11人が集まりました。酒匂さんや滑志田さんら、ご無沙汰していた連中が顔をみせ、大いに盛り上がりました。初めて酒匂さんと会ったのは両神山でした。いまは福岡にお住まいです。そういえば「三水会/武四会で年に一回は、酒匂さん案内で九州へ行こう」と話したものでした。最初に雲仙に行き、それっきりになっていました。来年は、ぜひ二回目をという話になりました。川俣さんが「事務局長の私と代表のふたりだけという時代もあった」と感慨深げでした。滑志田さんが出版された小説集「道祖神の口笛」が話題になりました。北口、児嶋、征矢、三井、平野哲さん(ビジター)は新穂高温泉に宿泊し西穂/独標に挑戦しましたが、悪天候で断念しました。翌朝は晴れました。しだいに雲がなくなり、周りの山がくっきり望めます。雲っているように見えるのは焼岳の煙だけ。例によって、明神池まで歩きました。徳沢



明神岳と明神橋

までと思うのですが、ことしもかないませんでした。大きな変化は夕食の素材を松本駅前で購入するのではなく、小梨平のキャンプ場にある売店で調達したことでした。メニューは、できるだけ簡単に調理できるようにレトルトカレーでしたが、前菜に馬刺しという豪華版でした。参加者/児嶋和夫、酒匂輝昌、下野武志、征矢三樹、高橋郁子、高橋重之、滑志田隆、三井賢治、平野哲次(ピジター)、係/川俣俊一、北口マリ子(文/高橋重)

TOPICS

■ルーム利用再開 最大利用/集会室8人

コロナ緊急事態宣言が10月1日に解除されたのに伴い、日本山岳会ルームの利用を再開されました。○利用時間/平日13～20時。土日は閉室、20時退出を厳守○最大利用人数/集会室8人、104号室12人、図書室2人○予約/ルーム利用はすべて予約が必要。前日までに事務局宛てに電話もしくはメールにて予約○利用時のお願い/体調の確認(体調不良の際は利用をご遠慮ください)、氏名、会員番号、電話番号の記入、マスク(不織布)の着用、こまめな手指消毒、消毒液は持参、部屋の換気、飲食禁止、トイレ・洗面所の電灯のオンオフ時や電話機、リモコン等、ハイタッチサーフェス(高頻度接触環境表面)の消毒。

■「信州の山小屋応援」に16,660円寄付

「三水会便り」に情報提供していただいているNHKカメラマンの清水さんの情報にもあるように、コロナの影響で山小屋の存続が難しくなっています。長野県がクラウドファンディング型の寄付を募集していたのに応え、三水会からわずかながら寄付しました。長野県は「雄大で多様な表情を持つ信州の山は、全国の登山者の皆さまに愛され支えられてきました。山岳の自然を守り、登山道の維持管理を最前線で担っている山小屋の皆さまを応援し、安全に登山できる環境を維持していこうではありませんか」と呼びかけています。【ふるさと信州寄付金事務局】事務局/長野県総務部税務課。目標金額/1,500万円。募集期間 2021/7/2～9/30。三水会は、2019年6月5日～7日の琵琶湖周遊トレッキングで14,900円、2021年9月4日～5日のあんころ餅と薬湯の集いで1,760円の余剰金を得ました。この金額を9月10日付で長野県ふるさと納税の山小屋応援プロジェクトに寄付しました。下記、遠藤さんからのご意見を参考にしました。①宿泊行事や野美の市などで残金が出た時点で、参加者間で相談して切り良く返金し端数は会の雑収入として入金する②お金は一旦雑収入で会の会計に繰り入れる③期末になったら、今回のように山小屋サポートや登山道整備のための寄付に充てる。(北口)

■三水会現地集会の保険をJAC包括契約に切り替え

三水会/現地集会の保険が替わります。これまでのように実施の都度、参加者全員がそれぞれに支払うのではなく、参加メンバーのなかに保険を掛けていないメンバーがいる場合に限り、日本山岳会の包括契約を利用して保険料を支払うこととなります。

三水会が実施している現地集会/山行は、参加者のすべてが保険をかけることを前提に行っています。そのため東京海上日動火災保険と独自の包括契約を結び、実施するたびに参加者から保険料を徴収してきました。しかし、参加者の多くが個人で個々に契約するようになり「二重払いになる」と指摘がありました。調査した結果、日本山岳会が東京海上日動火災保険と結んでいる包括契約を利用できることが分かりました。これにより、保険にはいっていない人がいても参加者が全員、保険料を支払うことで保険が成立します。三水会独自の包括保険は8月末に解約、東京海上日動火災保険にデポした30,000円は三水会の口座に戻しました。保険料は、軽登山/ハイキングは一人500円、登攀/アイゼン、ピッケル等を使用し1泊の場合は同1,500円などです。

三水会便り 第504回 発行2021年10月1日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 砂田定夫、北口マリ子、山口延子、文責
/高橋重之